

特別企画：九州・沖縄地区の調味料メーカーの経営実態調査

売上高上位 50 社の半数が 5 年前比で増収

～ 付加価値の高い「ダシ」や「スープ」、「合わせ調味料」に脚光 ～

はじめに

総務省「家計調査」によれば、2017 年の調味料消費額は、総世帯、単身世帯ともに 16 年比増となるなど、トレンドとしては増加基調にある。一方、各種調査によれば、調味料としての「しょう油」や「みそ」の消費額はそれぞれ減少傾向で推移している。今回は、調味料市場拡大の要因について調査した。

帝国データバンク福岡支店では、しょう油やみそ、ソース類などの調味料製造を主業とする企業（個人経営、協同組合なども含む）を「調味料メーカー」と定義。企業概要データベース「COSMOS 2」（約 147 万社収録）から、九州・沖縄地区（以下、九州）に本社を置く調味料メーカーを抽出し、製造品目、業歴、資本金（出資金）、2017 年（2017 年 1 月期～12 月期）の売上高などを調査・分析した。

なお、本調査でいう「調味料」には、総務省「家計調査」で「調味料」に含まれる食塩、砂糖、ジャム、ふりかけの製造業者は含まない。

調査結果（要旨）

1. 九州には調味料メーカーが 222 社あり、製造品目別では「しょう油」が 86 社（構成比 38.7%）で最多
2. 業歴別では「50 年以上 100 年未満」が 88 社（構成比 39.6%）で最多。業歴 50 年以上の『老舗』は計 154 社（同 69.4%）
3. 資本金（出資金）別では「個人経営」と「1000 万円未満」が計 106 社（構成比 47.7%）、売上高規模別では「1 億円未満」が 113 社（同 50.9%）と、中小・零細企業が大半
4. 2017 年売上高上位 50 社の売り上げ動向をみると、製造品目がタレやスープなどの「その他」は 18 社中 10 社（構成比 55.6%）が前年比「増収」となったのに対し、「みそ」は 6 社中 5 社（同 83.3%）が「減収」

1. 県別、製造品目別 ～「しょう油」が86社で最多

九州には、調味料メーカーが222社あった。県別にみると「福岡県」が58社（構成比26.1%）で最多。以下、「鹿児島県」が32社（同14.4%）、「熊本県」と「大分県」が各29社（同各13.1%）で並んで続いた。福岡県では「しょう油」メーカーが21社で4割弱、鹿児島県では「食酢」メーカーが4割強を占めた。

■ 県・製造品目の分布

メーカーの製造品目別では、「しょう油」が86社（同38.7%）、「みそ」が41社（同18.5%）。「その他」（54社、同24.3%）にはタレやスープ（粉末・液体）、ダシなどのメーカーが含まれる。

	食酢	しょう油	みそ	ソース類	その他	合計	構成比
福岡県	7	21	8	6	16	58	26.1%
佐賀県	1	14	4	1	2	22	9.9%
長崎県	1	7	5		6	19	8.6%
熊本県		13	8	1	7	29	13.1%
大分県		13	5	3	8	29	13.1%
宮崎県	3	8	5	4	6	26	11.7%
鹿児島県	14	10	3		5	32	14.4%
沖縄県			3		4	7	3.2%
合計	26	86	41	15	54	222	100.0%
構成比	11.7%	38.7%	18.5%	6.8%	24.3%	100.0%	

2. 業歴別 ～『老舗』が6割超

業歴別にみると、「50年以上100年未満」が88社（構成比39.6%）で最多。「100年以上」も66社（同29.7%）となった。

とりわけ、「しょう油」メーカーは86社中81社（同94.2%）が創業50年以上の老舗で、「100年以上」は同41社（同47.7%）に達した。業歴100年以上のしょう油メーカーの本店所在地は、「福岡県」が11社、「熊本県」が8社、「佐賀県」が7社など。「みそ」も41社中33社（同80.5%）が創業50年以上の老舗で、「100年以上」は同15社（同36.6%）。業歴100年以上のみそメーカーの本店所在地は、「熊本県」が5社、「福岡県」が4社で上位を占める。

半面、食文化の変遷とともに、伝統的調味料以外の「ソース類」、「その他」では創業50年未満の企業が過半を占めている。

■ 業歴の分布

	食酢	しょう油	みそ	ソース類	その他	合計	構成比
10年未満					4	4	1.8%
10年以上30年未満	2		1	3	17	23	10.4%
30年以上50年未満	7	5	7	5	17	41	18.5%
50年以上100年未満	12	40	18	5	13	88	39.6%
100年以上	5	41	15	2	3	66	29.7%
合計	26	86	41	15	54	222	100.0%

3. 資本金（出資金）別 ～「個人経営」と「1000万円未満」で約半数

資本金（出資金）別にみると、「1000万円以上5000万円未満」が93社（構成比41.9%）で最多。「1000万円未満」が82社（同36.9%）で、大半が中小・零細企業であることが分かった。

なお、上場企業 ■ 資本金（出資金）の分布

は（株）ダイショ
ー（福岡市、東証
2部）、（株）ピエ
トロ（福岡市、東
証1部）の2社。

	食酢	しょう油	みそ	ソース類	その他	合計	構成比
個人経営	1	7	7	2	7	24	10.8%
1000万円未満	9	35	20	4	14	82	36.9%
1000万円以上5000万円未満	14	35	13	7	24	93	41.9%
5000万円以上1億円未満	1	5			6	12	5.4%
1億円以上5億円未満	1	4	1		3	9	4.1%
5億円以上10億円未満				1		1	0.5%
10億円以上				1		1	0.5%
合計	26	86	41	15	54	222	100.0%

4. 売上高規模別 ～「1億円未満」が約半数

2017年の売上高規模別にみると、「1億円未満」が113社（構成比50.9%）で5割を上回った。とりわけ、製造品目が「しょう油」は86社中51社（同59.3%）、「みそ」は41社中24社（同58.5%）と全体の平均を上回る。

また、県別で「1億円未満」が半数を超えたのは、「佐賀県」（22社中17社、同77.3%）、「長崎県」（19社中10社、同52.6%）、「宮崎県」（26社中18社、同69.2%）、「沖縄県」（7社中5社、同71.4%）の4県。

■ 売上高規模の分布

	食酢	しょう油	みそ	ソース類	その他	合計	構成比
1億円未満	13	51	24	5	20	113	50.9%
1億円以上10億円未満	11	27	15	6	26	85	38.3%
10億円以上50億円未満	2	7	2	1	5	17	7.7%
50億円以上100億円未満		1		1	1	3	1.4%
100億円以上				2	2	4	1.8%
合計	26	86	41	15	54	222	100.0%

5. 2017 年の売り上げ状況 ～増収企業は、「食酢」やタレ・スープなどが中心

2017 年の売上高
上位 50 社のうち、
18 社（構成比 36%）
が前年決算から「増
収」となった。この
うち、2 期連続増収
となったのは 12 社
（同 24%）だった。

製造品目別にみる
と、「ソース類」は 6
社中 3 社（同 50%）が
増収。また、タレやス
ープなどの「その他」
も 18 社中 10 社（同
55.6%）が「増収」と
なった。中食産業の成
長を背景に業務用の需

要が拡大したほか、鍋用スープなど特定食材向けの高付加価値品が一般消費者の支持を受けた格
好だ。他方、「みそ」の増収企業は 6 社中 0 社、「しょう油」の増収企業は 15 社中 4 社（同
26.7%）にとどまった。「その他」分野の製品に取って代わられたほか、消費者の意識的な“減
塩”により消費量が落ち込んだ可能性がある。

同 50 社の 2012 年
から 2017 年の売上
状況は、25 社（同
50%）が「増収」。製
造品目別にみると、

■ 2017年売上高ランキング上位50社の売り上げ状況

	食酢	しょう油	みそ	ソース類	その他	合計	構成比
増収	1	4		3	10	18	36.0%
うち2期連続増収	(1)	(4)		(3)	(4)	(12)	24.0%
減収	2	8	5	2	5	22	44.0%
うち2期連続減収	(2)	(4)	(3)	(1)	(1)	(11)	22.0%
横ばい	2	3	1	1	3	10	20.0%
合計	5	15	6	6	18	50	100.0%

■ 九州の主な調味料メーカー

（単位：百万円）

順位	商号	所在地	2017年度		前年度比 増減率
			決算年月	売上高	
1	(株)ダイショー	福岡市東区*1	2017年 3月	19,692	+ 4.1%
2	フドーキン醤油(株)	大分県臼杵市	2017年 12月	15,400	+ 1.0%
3	宮島醤油(株)	佐賀県唐津市	2017年 12月	12,642	+ 3.8%
4	(株)久原本家食品	福岡県久山町	2017年 2月	12,174	—
5	一番食品(株)	福岡県飯塚市	2017年 2月	10,073	+ 0.3%
6	(株)ピエトロ	福岡市中央区	2017年 3月	9,564	+ 0.6%
7	富士甚醤油(株)	大分県臼杵市	2017年 5月	7,900	▲2.5%
8	ニビシ醤油(株)	福岡県古賀市	2017年 5月	3,206	▲4.0%
9	マルエ醤油(株)	福岡県みやま市	2017年 3月	3,178	▲2.1%
10	大分醤油協業組合	大分県臼杵市	2017年 3月	3,130	▲0.0%

*1登記面＝東京都墨田区

■ 2012～2017年売上高ランキング上位50社の売り上げ状況

	食酢	しょう油	みそ	ソース類	その他	合計	構成比
増収	4	6		4	11	25	50.0%
減収	1	8	5	2	6	22	44.0%
横ばい		1	1		1	3	6.0%
合計	5	15	6	6	18	50	100.0%

「食酢」は 5 社中 4 社（同 80%）が増収となった。酢の主成分である「酢酸」が血中脂質を低下
させることが科学的に実証されるなど、健康志向の高まりを背景に黒酢の需要が伸び、栄養補助
食品へと形を変えて新たな市場を開拓している。「ソース類」は 6 社中 4 社（同 66.7%）、「その他」
も 18 社中 11 社（同 61.1%）が「増収」となった。

まとめ

九州には、しょう油やみそ、ソース類などの調味料メーカーが222社あり、このうち69.4%に当たる154社が業歴50年以上の「老舗」であることが分かった。とりわけ、全国的に見ても甘いことで知られる「しょう油」のメーカーは、9割超が老舗だ。また、今回の調査では、調味料メーカーは中小・零細企業が約半数を占めていることが明らかになった。

帝国データバンク福岡支店が2018年8月27日に発表した特別企画「女性登用に対する九州企業の意識調査（2017年）」によれば、従業員に占める女性の割合は平均25.7%と、2014年以降の最高を更新。「女性の活用や登用を進めている」企業の割合は50.4%と、こちらも2014年以降の最高を更新した。女性の就業者数は年々増加しており、ライフスタイルの多様化が見込まれるなか、食生活にも影響が及ぶのは必至だ。家庭での調理機会が減少すれば、今後、さらに「しょう油」や「みそ」の消費量減少が続く可能性がある。

こうしたなかでも、調味料市場が拡大しているのは、本調査でいう「その他」分野が下支えしているためだ。調味料メーカー各社は、こうした「その他」分野の製品開発のほか、成長が続く総菜・弁当などの中食産業向け（業務用）の需要開拓に注力することで、製品ラインナップを充実させてきている。また、量販店には、付加価値の高い「ダシ」や「鍋用スープ」、「合わせ調味料」に加え、減塩、保存料・着色料無添加、遺伝子組換え食品不使用といった健康、安全志向の調味料が陳列されるなど、食文化の変化とともに、伝統的調味料の利用状況や消費者の嗜好にも変化が生じている。

2000年から2010年までにおける九州の調味料メーカーの倒産件数は1件（休廃業・解散：13件）だったが、2011年から2018年8月までの同件数は8件（同：18件）発生している。そのなかでも、「その他」に分類されるメーカーが3件（同：8件）を占めるなど、成長が見込める分野への参入が相次ぎ、競合が激化する様子もうかがえる。今後、そうした影響で市場からの退出を余儀なくされるメーカーが増加していく可能性はあるが、常に変化する市場の需要を汲み取った調味料の開発を進めることが生き残りのカギとなりそうだ。

【内容に関する問い合わせ先】

株式会社帝国データバンク福岡支店 担当：永田憲哉

TEL：092-738-7779（情報部） FAX：092-738-8687

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。報道目的以外の利用につきましては、著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。